

令和6年度 第7回沖縄県がん診療連携協議会 ベンチマーク部会 議事要旨

開催日時：令和6年11月25日（金）9：00～10：30

場 所：Zoom を利用した Web 会議

出 席：7名

井岡亜希子（まるレディースクリニック院長）、伊佐奈々（琉球大学病院がんセンター診療情報管理士）、伊藤ゆり（大阪医科薬科大学研究支援センター医療統計室室長准教授）、埴岡健一（国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科教授）、東尚弘（東京大学公衆衛生学健康医療政策学教授）、平田哲生（琉球大学病院診療情報管理センター長）、増田昌人（琉球大学病院がんセンター長）

欠 席：3名

天野慎介（全国がん患者団体連合会理事長）、有賀拓郎（琉球大学病院診療情報管理センター副センター長）、山里紘美（沖縄県保健医療介護部健康長寿課主任）

陪 席：1名

西佐和子（琉球大学病院がんセンター事務）

【報告事項】

1. 令和6年度 第6回ベンチマーク部会議事要旨について

増田部会長より、資料1に基づき、ベンチマーク部会の議事要旨について説明があった。

2. 研修会について

増田部会長より、資料2に基づき、12月22日に開催される「ロジックモデルと指標の活用の仕方を身につける研修会」の案内があった。

3. その他

特になし。

【協議事項】

1. 医療者調査について

増田部会長より資料3に基づき、第3回医療者調査の最終案について提案があった。

➤ 調査対象は、①医師、②看護師、③薬剤師 となった。

東委員より、がん対策の対象として歯科医師を含めることは適切だが、実際に歯科医師が関与する場面は非常に少ないため、アンケートの結果があまり意味のない回答を集めることになる。歯科医師を含めるのであれば、医師と歯科医師を分けて回答で

きるようにしたほうがよいとの意見があった。

埴岡副部長より、ロジックモデルで職種別対応が必要な指標に関しては、職種別に細分化した質問を行うことで、データの質を向上させることができるという旨の考え方が示された。一方で、無意味な回答が含まれることについては東委員の意見に賛同する。慎重に判断していただきたいとのことだった。

増田部長より、医療ソーシャルワーカーに関しては、別途アンケートを行うことが適切かもしれないとの意見があった。緩和ケア・在宅療部会では、在宅診療所や訪問看護ステーションに対して施設アンケートを実施する計画が進行中であり、質問内容はA4一枚に収める形で検討されている。そのルートで調査が可能である。広範囲な質問なので、医師、看護師、薬剤師に限定した方が、混乱は少ないのではないかとのことだった。

- 勤務する医療施設を問う選択肢は、医療圏や拠点病院・診療病院・その他の医療機関といった分野を問うのではなく、勤務する施設名を選択肢とすることになった。病院ごとに解析して公表する予定はありませんといった免責事項については、事務局で検討する。
- 医師の主たる分野を問う選択肢は診療科とすることになった。

平田委員より、質問する際には何を知りたいかを明確にし、それに基づいて決めた方がよいのではないかと提案があった。手術と薬物チームの医師の違いについて知りたい場合には、選択肢に「その他」と入れた方がよいとのことだった。
- 全問共通の選択肢で回答できるように、設問を変えることになった。

東委員より、主観的な意見を求める質問にしたほうがさらに答えやすいとの提案があった。具体的には、「思う」という選択肢にすることで、回答者が答えやすくなるとのことだった。事実はまだ知りようがない。事実に基づいた回答を求めることがアンケートの基本ではあるものの、事実を知らない人に答えてもらう場合には「思う」といった主観的な選択肢が適切である。これにより、回答がしやすくなり、選択肢の統一も図れるとのことだった。
- 質問の内容について、まずポジティブなものか、ネガティブなものかを確認した上で、ポジティブで聞いても結果がそんなに変わらない質問はポジティブでなるべく作る。ただし、ポジティブな質問だけでなく、ネガティブな質問も必要な場合があり、それは残すことになった。

2. 進捗評価のための 41 市町村へのアンケートについて

3. 進捗評価のための 25 施設へのアンケートについて

増田部会長より、資料 4、5 に基づき、アンケート調査の結果について報告があった。

井岡委員より、がん検診の研修会に参加していない市町村の担当者が多いため、検診担当者が市町村を超えて交流や情報交換をする場が必要ではないかと提案があった。コール・リコールの工夫も色々あると思うので、そうした情報交換の場を設けることが重要である。さらに、検診担当者全員が研修を受ける流れを作ることが望ましく、担当者が孤独を感じたり、隣の市町村の状況が気になる状況を改善することにも繋がるということだった。伊藤委員より、市町村の検診担当者が情報交換の場に参加する前に、研修会を受けることを条件にするなど、そうすることで研修へのモチベーションが向上するのではないかと提案があった。

4. その他

今回は 12 月中旬に開催を予定しています。